

猫を祀る社

猫稲荷神社絵馬展

人々の暮らしのなかの祈りから生まれた「猫神」の歴史



主催 川俣町
協力 猫稲荷神社
石黒伸一郎（村田町歴史資料館館長）
福島県織物同業会
場所 かわまたおりもの展示館
（道の駅川俣施設内）
福島県伊達郡川俣町大字鶴沢字東十三の二
Tel 024-565-1889

令和7年
9月6日(土)～11月9日(日)
9:00 ▶ 17:00

最終入館 4時30分
休館日 毎週月曜日
（祝祭日の場合は翌日 9月16日・10月14日・11月4日）

猫稲荷神社について

猫稲荷神社は、福島県伊達郡川俣町西福沢の低い丘陵上に鎮座しています。創建は、安政3年（1856）頃に遡り、初めは稲荷神社でしたが、明治4年（1871）に猫稲荷神社と改められました。伊達郡は、明治から大正にかけて、全国有数の養蚕・絹織物が盛んな地域でした。

養蚕に携わっていた人々は、繭が良く出来るように、蚕神・蛇神・廿三夜・蚕影山など多くの神仏に祈願しました。その中には、蚕を食べてしまう鼠をよく捕る猫を神格化した、猫神にも祈りました。

猫神には「猫神」という一文字を彫った石碑、猫の図像を浮き彫りや線で彫った石碑、猫の姿を丸彫りした石像、石造や木造の祠などがあります。

この猫稲荷神社では、既に奉納されている猫を描いた絵馬を1枚借りて行き、繭が良く出来たり、猫が多くの鼠を捕つたら、絵馬を2枚にして返すという、いわゆる「倍返し」が行われたため、社殿内には655枚という多くの絵馬が残っていました。

図柄としては、座っている猫の絵が最も多く、中には鼠を捕っている猫、両面に猫が描かれている絵馬などもみられます。また、「奉納猫稲荷神社」「養蚕安全祈」「蚕安全」などと書かれている絵馬もあります。

令和7年9月

石黒伸一郎

村田町歴史資料館館長

イベントのご案内

かわまたシルクフェスティバル

川俣のシルクを使った様々な商品を中心に展示販売いたします。この秋、貴方に合った商品と出えるチャンス！ご来場をお待ちしています。

日時：令和7年10月10日(金)～15日(水)

場所：かわまたおりもの展示館



かわまたおりもの展示館へのご案内

- 電車・バスを利用
東北新幹線福島駅（東口）より バス45分
（JRバス「川俣高校前行」で「絹の里シルクピア前下車」）
- 車を利用
東北自動車道二本松ICより30分
東北自動車道松川スマートICより30分





福島県川俣町小島字坂の猫神碑



伊達市梁川町山舟生字清水の猫石像



伊達市梁川町山舟生字大小・日吉神社の猫神碑



福島県川俣町・猫稲荷神社



伊達市梁川町山舟生字小手内・観音堂の猫石像

◇写真提供 村田町歴史みらい館 館長 石黒伸一郎◇

鳥居



猫稲荷神社

明治10年(1877)	明治17年(1884)	明治22年(1889)	明治28年(1895)
明治30年(1897)	明治32年(1899)	明治33年(1900)	明治38年(1905)
明治36年(1903)	大正8年(1919)	大正8年(1919)	大正8年(1919)
大正12年(1923)	大正15年(1926)	昭和3年(1928)	昭和26年(1951)
不明	不明	不明	不明
不明	不明	不明	不明